130th

# CSR Report 2019

Countdown to 140th

大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

**編集方針**

当レポートはステークホルダーのみなさまに私たち大川印刷の取り組みを広くご理解いただくため、2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの活動内容を中心に編集しています。

## 社長あいさつ

大川印刷の「CSR活動レポート」をご覧頂き誠にありがとうございます。 弊社ではこれまで同様 CSR のガイドライン規格である「ISO26000」の「7つの原則」、「7つの中核課題」をガイドとし活動しています。2018 年度はプロジェクトチーム制を充実させる形をとりました。SDGs に関する社内の意識の高まりもあり、7 つものプロジェクトチームが発足しました。

地球温暖化の問題が深刻化する中､これまでの環境印刷だけでは不十分であると判断した「再生可能エネルギー 100% 印刷プロジェクト」は初期投資無料の太陽光パネルの設置を実現させ、再生可能エネルギー 100% 印刷工場実現の足掛かりを築くことができました。

「SDGs Fun to Work プロジェクト 」は初めてとなる参加希望者を一般公募型にした「SDGs 報告会」を企画し、140 名もの参加者を実現させるに至りました。そして、「若者カフェプロジェクト」は若者が会社や自分の将来について語れる場を増やそうと考え、社内だけでなく外部で高校生と接する機会なども創ることが出来ました。「ゼロ・エミッション 2020 プロジェクト」は 2020 年までにゼロ・エミッション工場を実現するという目標を立て、今一度ごみの分別の徹底を進めて参りました。「日本初！ FSC 大川ブランドプロジェクト」では、実際の新製品はでき上がりませんでしたが、オリジナル商品の開発という分野に対して積極的な姿勢を会社に創ることができました。また、「会社案内＋α プロジェクト」は SDGs 推進に関係する新商品、新サービスとして、会社案内に SDGs、ESG の要素を加える活動を行いました。最後の「品質保証チーム」は 2018 年新たに設置された品質保証部のフォローアップを行って参りました。

これらプロジェクトチームは原則単年度制で運営しています。2018 年全体の取り組み結果をご覧いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。どうぞ宜しくお願いします。

株式会社大川印刷　代表取締役社長
大川哲郎

# 大川印刷の CSR

**私たち大川印刷は「情報産業の中核として信頼に応える技術力と喜びを分かち合えるものづくりの実現」を基本理念に掲げ、ISO の CSR 規格である「ISO26000」をガイドとしながら、本業を通じた様々な社会へのお役立ちを目指しています。**

## ISO26000 7 つの中核主題（社会責任）に対する基本的な考え方

**【組織統治】**
基本理念である「情報産業の中核として、信頼に応える技術力と、喜びを分かち合えるものづくりの実現」に基づき、健全かつ公平な経営体制を構築し、経営の透明性・健全性・遵法性の確保、迅速かつ適切な情報開示に努めてまいります。

**【人権】**
ステークホルダー全ての人権と尊厳を尊重すること、また、いかなる差別や嫌がらせも許さず、それらを見過ごすことも許さないことを基本方針とします。

**【労働慣行】**
差別のない公平、公正を基本とし、お互いが尊重し合い、差別や嫌がらせのない職場環境を確保することで活力ある企業風土を醸成させます。また、学び合い、成長し合える組織風土づくりを大切にし、社員の心身のゆとり、豊かさを実現できるように努め、快適、安全で清潔な職場づくりを行うことを基本方針とします。

**【環境】**
持続可能な社会・経済の実現のためには、持続可能な環境を維持・向上させていくことが重要であると考えます。そのため､独自の「品質・環境方針」にて基本方針を示すと共に、今後は国連の提唱する SDGs の内容も取り入れ活動を推進していきます。

**【公正な事業慣行】**
ステークホルダーに対し、あらゆる法令及び規定業務の遵守をお約束するとともに、取引先に対しては、公正な取引関係のもと、業務を適正に受託し事業を実施することを基本方針とします。

**【消費者に関する課題】**
「消費者」は「生活者」と表現します。生活者に直結する課題として、「化学物質過敏症に関連する VOC の削減」、「3R を始めとした環境問題」､「製品における異物･異種混入の防止」､「情報保障としてのメディア・ユニバーサルデザインの推進」を重要課題として取り組みます。

**【コミュニティへの参画】**
地域の課題抽出および課題解決のため、企業・行政・市民・NPO・市民団体等のコミュニティへ積極的に参加していきます。

# 大川印刷× SDGs

**大川印刷では、2017 年から SDGs の考えを経営計画に取り込み、SDGs の目標達成のためのチャレンジをスタートさせました。**

## SDGs（Sustainable Development Goals）とは

世界では気候危機や格差問題など、全世界で取り組まなければならない多くの課題が残されています。2015 年、それら様々な課題に対して 17 のゴールと 169 のターゲットからなる「SDGs（持続可能な開発目標）」が、日本を含む世界 193 ヵ国の合意のもと国連において採択されました。SDGs は 2030 年までに達成すべき目標とされ、わが国でも 2016 年に政府によって「SDGs 推進本部」が設置され、国や自治体、企業や NPO、市民、さまざまな人々を巻き込んで「SDGs」目標達成のための活動が始まっています。

## 大川印刷「SDGs 経営計画プロジェクトチーム」活動

弊社では、2017 年度から経営計画に SDGs を実装して取り組みをスタートさせました。2018 年度には SDGs 経営計画 2 年目として、各プロジェクトチームが社会や地域が抱える課題を考えながら、従業員のボトムアップ提案による SDGs 達成のための活動をおこないました。2018 年 12 月、これらの活動が評価され、SDGs 推進本部が主催する第 2 回ジャパン SDGs アワードにおいて「SDGs パートナーシップ賞（特別賞）」を受賞しました。

2018 年度プロジェクトチーム表

| チーム名 | 取り組み内容 | ターゲット |
|---|---|---|
| 再生可能エネルギー100%印刷プロジェクト | 自社工場で使用される電力の再生可能エネルギー 100%化を目指すプロジェクト | 7 |
| 若者カフェプロジェクト | 若者の採用や新人教育など、人財の確保、定着を目的としたプロジェクト | 8 |
| SDGs Fun to work プロジェクト | SDGs の取り組みを通じて働く楽しさを追求するプロジェクト | 8 |
| ゼロ・エミッション 2020 プロジェクト | 2020 年までに全社での廃棄物ゼロを目指すプロジェクト | 12 |
| 会社案内＋α プロジェクト | 中小企業を対象に従来の会社案内に「ESG」要素を追加した新しい会社案内を提案、企業の SDGs の推進につなげるプロジェクト | 12 |
| 品質保証チーム | 不良品を出さない仕組みや労働環境の改善など、製品品質にかかわる改善全般に取り組むプロジェクト | 12 |
| 日本発！FSC 大川ブランドプロジェクト | 自社で排出される FSC® 森林認証紙の「端材」を使って再生紙をつくるプロジェクト | 15 |

年に 1 回、ワークショップを開催し社会や自社が抱える課題や成果を従業員同士で話し合う

出された課題や成果を発表し全従業員で共有

課題解決のプロジェクトを立ち上げリーダー立候補者がプレゼン賛同者がチームメンバーになる

ジャパン SDGs アワード受賞式にて安倍総理と（場所：首相官邸）

# 環境印刷の推進

2005年度より自社の存在意義（パーパス）を「ソーシャルプリンティングカンパニー®（社会的印刷会社）」と位置づけ、「環境印刷」を推進しています。「ゼロカーボンプリントの推進」、「FSC®森林認証紙の使用推進」、「ノンVOCインキの使用推進」、「電力の再生可能エネルギー化」を本業を通じて取り組める活動と位置づけ、重点的に推進しています。

## 国内唯一のゼロカーボンプリント（$CO_2$ゼロ印刷）の推進

自社事業により排出される年間の$CO_2$を算定し、その全量を相殺（オフセット）する国内唯一の「ゼロカーボンプリント」を2016年度から開始しました。「ゼロカーボンプリント」は政府の運営する$CO_2$排出量取引制度「J-クレジット」を使い、自社から排出された$CO_2$と同量相当のクレジットを購入、クレジット購入が温室効果ガス削減事業へ投資される仕組みになっています。排出された$CO_2$と同じ量を吸収する温室効果ガス削減事業へ投資することで、$CO_2$を出さない（相殺する）印刷、「ゼロカーボンプリント」を実現しています。

カーボンオフセットマーク

製品製造時に$CO_2$を出さない（相殺する）この取り組みは、自社のスコープ1、スコープ2のゼロ化、お客様にとってのスコープ3の削減につながる地球温暖化対策、脱炭素化社会実現のための活動となっています。

※スコープとは：製品やサービスのサプライチェーンにおいて排出される温室効果ガスは、スコープ1（自社により直接排出されたもの＝ガソリン、天然ガスなど）、スコープ2（自社により間接的に排出されたもの＝電力など）、スコープ3（その他により排出されたもの＝自社以外のサプライチェーン各過程で排出されたもの）の3つに分類されます。
近年、大手企業を中心に、スコープ3（自社以外のサプライチェーンで排出されたもの）の管理と削減を行い、それを対外的に開示する動きが高まっています。
※サプライチェーン：製品製造時における原料調達から、製造、消費、廃棄にいたるまでの一連の流れ

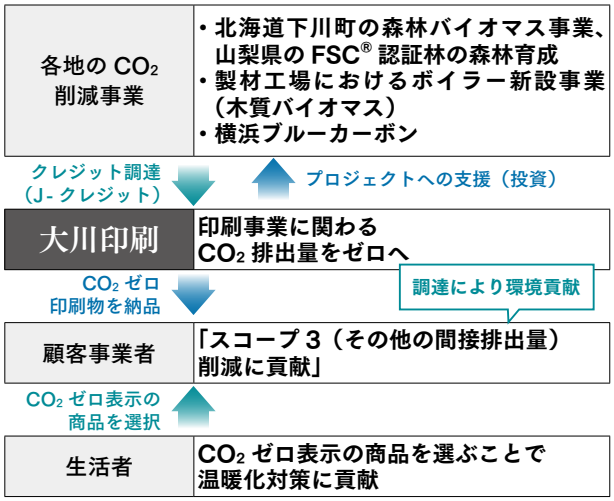
## 自社$CO_2$排出量実績と年間目標

**2018年度 実績** 2017年度の年間$CO_2$排出量167 t /$CO_2$を算出。この数値を元に170 t /$CO_2$分を「J-クレジット制度」を利用してカーボン・オフセットしました。2017年度からは、横浜市が推進する「横浜ブルーカーボン事業」に投資し、地元横浜の海の再生事業にも投資しています。

**2019年度 目標** 2018年度の年間$CO_2$排出量実績190t/$CO_2$を元に、2019年度より自社で発電予定の太陽光電力33t/$CO_2$分を除いた157t/$CO_2$を購入、カーボン・オフセットを行います。2018年度から社内で立ち上げた「再生可能エネルギー100％印刷プロジェクト」を進め、$CO_2$排出量の少ない太陽光パネルによる自社発電や、再生可能エネルギー（風力）電力を購入し、温室効果ガスの発生を抑えた電力確保に努めます。（P6「再生可能エネルギー100％工場の達成」参照）

**2020年度 目標** 本社・工場の照明を蛍光ランプからLEDランプに交換、温室効果ガスの削減活動を進めるとともに、使用電力を100％再生可能エネルギーに転換させる意思と行動を宣言する「再エネ100宣言 RE Action」に加盟し、再生可能エネルギーによる電力供給を推進していきます。

### $CO_2$排出量100％カーボン・オフセットの仕組み



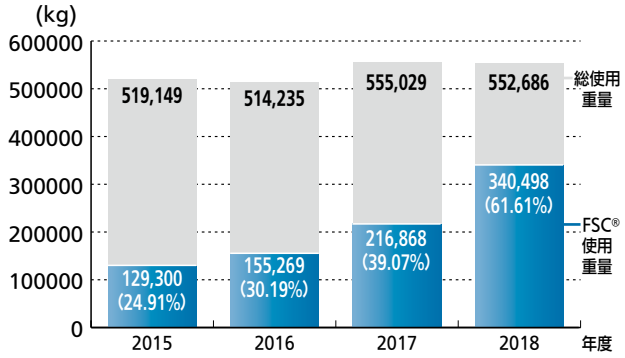

**オフセット（相殺・打ち消し）事業投資事業内訳**

| 年度 | 2017年 | 2018年 | 2019年（予定） |
|---|---|---|---|
| 製材工場におけるボイラーの新設事業（木質バイオマス） | 159t | 167t | 154t |
| 北海道下川町五味温泉等の森林バイオマス活動事業 | 5t | 1t | 1t |
| 山梨県県有林活動温暖化対策プロジェクト | 5t | 1t | 1t |
| 横浜ブルーカーボン事業 | 1t | 1t | 1t |

## FSC® 森林認証紙の使用推進

2004年度からFSC® 森林認証紙を積極的に使用しています。FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）によって認証された紙は違法伐採されていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを原料としています。FSC® 森林認証紙を使用することは、違法伐採の防止、持続可能な資源の活用へとつながります。

FSC® マーク




FSC® 使用量

**2018年度 実績** 2018年度の年間用紙購入総重量552,686kgのうち、FSC® 森林認証紙の購入総重量は340,498kgでした。全体におけるFSC® 森林認証紙の占める割合は約62%となり、2018年度目標の購入総重量比率50%を大きく上回ることができました。

取引先製薬会社様添付文書（ロール紙）のFSC® 化と取引先食品会社様お弁当掛紙の一部FSC®化への移行が完了したことにより、目標を達成することができました。

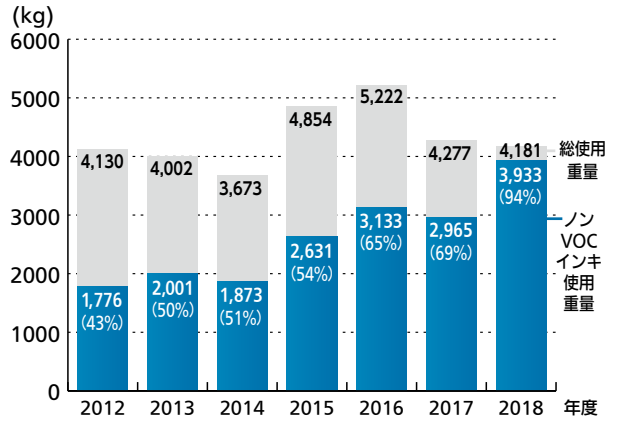
**2019年度 目標** 取引先食品会社様ほか、お客様各社へFSC® 森林認証紙への切り替えを引き続き提案し、購入重量比率65%を目標とします。

**2020年度 目標** 取引先食品メーカー様お弁当掛け紙のFSC® 化を進め、購入重量比率75%を目指します。

## ノンVOC（石油系溶剤0%）インキの使用

2005年度から環境や人体に有害なVOC（揮発性有機化合物）を含まないノンVOCインキの導入を開始しています。すでに基本となるカラー4原色(CMYK)は全面切り替えが完了（2005年）しており、残る特色インキのノンVOC化も進んでいます。

ノンVOCインキマーク




ノンVOCインキ使用割合

**2018年度 実績** お弁当掛け紙のノンVOC化への切り替えが進み、インキ年間総使用量4,181kgのうちノンVOCインキの使用量は3,933kgでした。これは年間総使用量全体の94%にあたり、2018年度目標の80%を超える結果になりました。今後は切り替えが遅れているニスのノンVOC化を進め、2020年度はノンVOCインキ100%工場を目指します。

**2019年度 目標** インキ全体使用量使用率95%の達成を目標とします。

**2020年度 目標** 自社で使用するインキの100%ノンVOCインキ化を目標とします。

子どもたちへのノンVOCインキの説明（工場見学にて）

# 速　報

## 2019 年度に再生可能エネルギー 100%工場達成（太陽光＋風力）

2018 年度、自社工場が使用する電力をバイオマスによる再生可能エネルギー 100%電力に切り替えるとともに、横浜市が進める「太陽光発電普及キャンペーン」の一環である「事業者向け初期投資 0 円 太陽光発電設置モデル事業」の第 1 号事業者として、横浜市、横浜市地球温暖化対策推進協議会、ソーラーフロンティア(株) 様と協働で、本社屋上に太陽光パネルを設置しました。

2019 年度、本社社屋の太陽光パネルによる発電を開始、自社工場の消費電力約 20%を自家発電、残り約 80%の電力を横浜市の脱炭素の施策「ゼロカーボンヨコハマ」事業により、横浜市内に供給されることとなった青森県横浜町の風力発電の電力に切り替え、太陽光と風力の電力を使った再生可能エネルギー 100%工場となりました。

自社消費電力の再生可能エネルギー化は、石油等の枯渇資源に頼らない、また、発電時の $CO_2$ の発生を抑える、気候変動や地球温暖化問題にも対応する活動となっています。

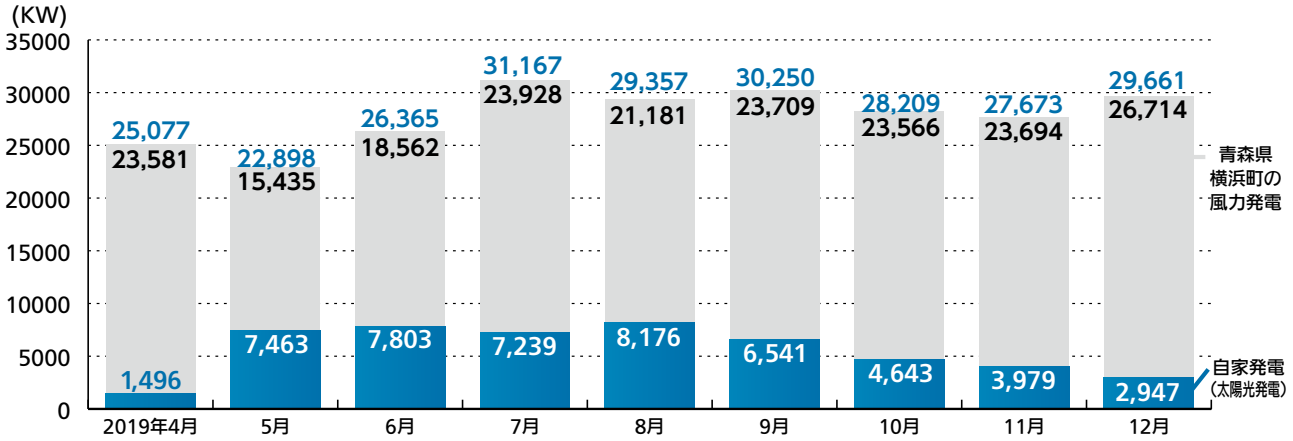
本社屋上の太陽光パネル

横浜の挑戦　Vol. 14

青森県横浜町の再エネ電力 横浜市内へ

6事業者へ供給開始　連携協定第1弾

「再エネ電力横浜市内へ」
神奈川新聞 2019 年 9 月 25 日（同社提供）




使用電力量と電力の内訳（2019 年 12 月現在）

# 品質に関する取り組み

ISO9001 の認証を受け、同規格に沿った品質管理体制を採っています。さらに、独自の「品質・環境方針」を定め、環境負荷低減、汚染防止、顧客満足向上、従業員満足向上等、製品だけでなく「あらゆるサービス」の品質向上に努めています。

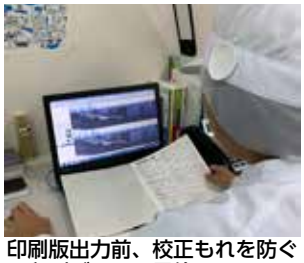
## 品質保証部の新設

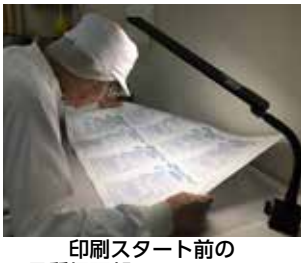
品質保証体制の強化のため、2018 年度、新たに品質保証部を設置しました。製造工程におけるチェック体制の強化、清掃やメンテナンス、クレーム発生時の即時対応や改善処置など、お客様、その先の生活者の皆さまに安心して製品を手にしていただけるよう、管理体制の改善と品質向上に努めています。

| 品質保証部による改善活動（2018 年度） |
|---|
| 保有機械（CTP、印刷機、スリッター、断裁機、員数機等）の動作確認（バリデーション）の実施（月1回）と記録 |
| 毎朝行われる清掃活動の清掃箇所ごとの清掃記録と清掃チェックの実施 |
| 印刷機ダクトの月に一度の清掃と清掃記録の実施 |
| 協力会社委託の際の製品入出庫出納帳による管理 |
| 改善情報を受けての発生部門の作業手順書の是正と改善 |
| 日常点検記録への作業者名と確認者名記載の徹底 |
| 機械まわりの整頓（工具を専用工具箱や専用棚へ保管） |
| 断裁機まわりの清掃 |

印刷機まわりの工具の整頓

印刷機に設置された検査カメラ


印刷版出力前、校正もれを防ぐ
印刷データの最終チェック


印刷スタート前の
品質保証部によるチェック

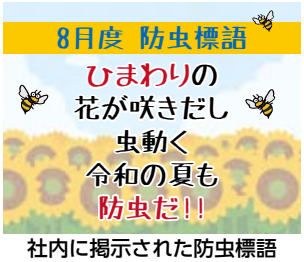
## 工場内 防虫活動

製品の品質向上のため、工場内の防虫対策に取り組んでいます。2015 年からは、防虫専門の外部協力会社と協働し、工場内の殺虫対策や清掃活動など、製品への虫の混入防止に努めています。活動の結果、2017 年度、2018 年度と、製品への虫の混入による事故を 0 件に防ぐことができました。

| 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 |
|---|---|---|---|
| **1 件** | **1 件** | **0 件** | **0 件** |

製品への虫の混入による事故件数

検品室入り口に設置された
防虫用粘着マット



社内に掲示された防虫標語

虫の侵入を防ぐため
工場壁面の隙間を埋める作業

外部協力会社による天井裏への
殺虫剤噴霧作業の様子

# 地域貢献と情報発信に関する取り組み

**独自に「地域志向・CSR 方針」を定め、地域社会の一員として、さまざまな地域貢献活動を行っています。また、ステークホルダーに向け、自社取り組みや CSR、SDGs に関連した情報の積極的な発信に取り組んでいます。**

## 大川印刷 地域志向・CSR 方針

株式会社 大川印刷は、地域社会にとって有益なサービスを提供するため法令を順守し、2020 ビジョン、「企業行動規範」の下で、以下の事項を企業活動の中で実施します

【目的】
100 年企業としてこれからも地域に貢献し、企業経営を継続していくことを目的に CSR 活動を推進しています。

【目標】
そのために地域や社会に必要とされる人と企業になることを目標とし、あらゆる「良いこと」を実践していきます。

■お客様に対して
- お客様のご要望に真心を持って応え、要求された品質を確実にご提供致します。
- 関連法令を順守し、お客様に信頼される営業活動を推進致します。

■地域社会に対して
- 地域の経済や社会の健全な発展のため地域貢献活動を積極的に推進します。

■従業員に対して
- 労働関連法令を順守し、安全で働き易い職場環境作りを推進します。

■ステークホルダーに対して
- ステークホルダーの皆様とともに発展して行くため、信頼関係を積極的に醸成していきます。

■環境に対して
- 自らが環境問題に対し行動ができるひとりの人間として日頃から興味を持って情報の収集と知識の蓄積に自己努力するとともに出来ることから自発的に行動していきます。

地域志向 CSR マネジメント・システムとその成果を改善し続ける努力をします。

平成 21 年 2 月 26 日
株式会社　大川印刷
代表取締役　大川哲郎

平成 21 年に制定した地域志向・CSR 方針

## インターンシップの受け入れ

2008 年より大学生や留学生を中心にインターンシップの受け入れを行なっています。これまで計 50 名（2018 年度現在）の受け入れを行い、「大川印刷×インターンシップ生」の視点から、社会的課題解決のためのヒントや多くのプロジェクトが生まれました。

学生インターンシップ生（2018 年度）

輿石 淳（こしいし あつし）さん
（東京工芸大学）
「印刷会社」による SDGs の取り組みについてのレポートを大学祭などで発信する提案をしていただきました。

早坂 成美（はやさか なりみ）さん
（関東学院大学）
SDGsを通じた大学の社会的責任、社会課題への貢献について提案していただきました。

宇都宮 千夏（うつのみや ちなつ）さん
（成城大学）
障がいなどの理由で美術館や博物館に行けない方々のために、誰もが平等に楽しめる方法を提案していただきました。

黄 越（こう えつ）さん
（横浜国立大学）
ビジネスマナーを知ってもらうとともに、「SDGs による社員意識の変化」のアンケートをまとめていただきました。

呉 昑芷（ご いんし）さん
（横浜国立大学）
全従業員へインタビュー、日々の業務がどのように SDGs の目標につながっているかをまとめていただきました。

泉　光太郎（いずみ こうたろう）さん
（東洋大学）
営業サポートを通じ、社会人としてのビジネスマナーを学んでいただきました。

教員インターンシップ生（2018 年度）

武部 佑昂（たけべ ゆうこう）さん
（上菅田特別支援学校）
パラリンピック正式種目「ボッチャ」を通じた社会と障がい者とのつながりを増やすための提案をしていただきました。

白神 裕（しらが ゆう）さん
（もえぎ野小学校）
地域企業と協働した、学校への SDGs 教育導入について提案していただきました。

瓦林 実希（かわらばやし みき）さん
（大綱中学校）
多国籍の児童たちに対応した「多言語版 保険調査表」作成の提案をしていただきました。

※所属はインターンシップ当時のものです

## オープンファクトリーの開催

ステークホルダーの皆さまを対象にオープンファクトリー（工場見学）を開催しています。本業である印刷会社としての活動のほか、地域企業が取り組む CSR、SDGs の活動事例などもご紹介しています。毎年、地域の子どもたちや学生、市民の皆さまなど、様々なステークホルダーの皆さまにご来社いただいています。2018 年度は 35 件、計 440 名の方たちが来社されました。

| 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 |
|---|---|---|---|
| **211 名** | **264 名** | **343 名** | **440 名** |

工場見学者数の推移

### 工場見学に対するご意見・ご感想

- 印刷会社のイメージが変わった。それぞれの機械にSDGsの目標が掲げられていたり、いたるところに工夫がこらされていて驚かされた。小学生にSDGsの講演を行っているのもすばらしい取り組みだと思いました。
- 印刷工場を初めて見学させていただきましたが、食品工場かと思うくらい清潔で驚きました。今まで FSC® マークを気にしたことがありませんでしたが、注目してみるとおもしろいなと思いました。

## ステークホルダーへの講演・講義活動とメディア掲載

CSR や SDGs に関心を持たれる方々に、ご依頼いただいた際は、代表の大川や従業員により、講演活動や出前授業、取材等に応じさせていただいております。2018 年度は自治体や企業、大学など 33 か所で、弊社の取り組みや活動について講演させていただき、新聞や業界誌など、27 のメディアに取り上げていただきました。

### 講演に対するご意見・ご感想（講演後のアンケートより）

- 中小企業がここまでこだわって印刷されていることを知り、たくさんのことを考えさせられました。全ての事業が社会につながっているのですね！
- 身近なものの先を見て、社会問題を感じることの大切さがよくわかりました。
- 企業としての組織活性化につながっていて、色々参考にさせていただくことがありました。とても勉強になりました。

Innovation Times
SDGs 横浜の挑戦
「印刷通じ社会を変えたい」
大川印刷・大川豊社長に聞く
幸福な未来の世界へ

「SDGs 横浜の挑戦」
神奈川新聞 2019 年 2 月 20 日
（同社提供）

従業員による出前授業
（神奈川県立舞岡高校）

代表大川による講演
（横浜市水道局）

| 大学・教育関係 | 官公庁・自治体 | 企業・財団<br>業界団体等 | ＮＰＯ |
|---|---|---|---|
| **7** | **6** | **15** | **5** |

## SDGs 報告会の開催

弊社では情報開示、情報発信の場として、ステークホルダーの皆さんをお招きした報告会を開催しています。自社 CSR 活動の成果発表の場として、また、皆さんと社会課題の共有やコミュニケーションが計れる貴重な場として、年に一度開催されています。

| 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 |
|---|---|---|---|
| **37 名** | **92 名** | **82 名** | **140 名** |

参加者数の推移

ゲストによる
パネルディスカッション
左から慶應義塾大学 蟹江教授、
㈱日本フードエコロジーセンター
高橋社長、弊社社長大川

企画から準備、設営、運営まで、全従業員が協力して開催

# 進行中のプロジェクト

社会課題や地域課題の解決、地球環境や労働環境の改善、よりよい社会や組織を目指し、さまざまなプロジェクトを進行しています。

## ゼロ・エミッション（廃棄物ゼロ化）プロジェクト

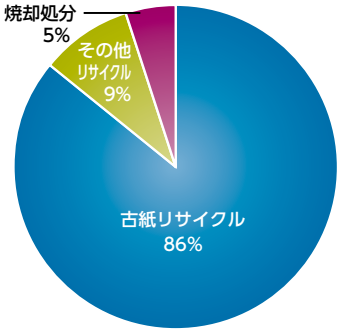
弊社では 2017 年度より、全社での廃棄物ゼロを目指す「ゼロ・エミッションプロジェクト」を立ち上げ活動しています。工場内で出される資源ごみの分別と計量、有志メンバーによるセミナーへの参加や勉強会の開催など、全社での「ゼロ・エミッション達成」を目指し活動しています。2018 年度は現在のリサイクル状況の確認と資源ごとの年間回収量を計測しました。

2018年度、回収された資源総重量 62,574kg のうち、リサイクルされたものが59,559kg（紙、アルミニウム等金属で全体の約 95%）、焼却処分されたものが 3,015kg（廃液、インキ残肉等で全体の約 5%）という結果でした。今後は焼却処分される資源を減らし、「ゼロ・エミッション 100%」を目指します。

※ゼロ・エミッション：1994 年に国連大学が提唱した、製品の生産時にあらゆる廃棄物を出さない（リサイクルする）資源循環型の社会システムのこと。主に、工場などでの廃棄物の発生量を減らし、出された廃棄物は徹底的にリサイクルして有効活用、最終処分（埋め立て処分）される廃棄物を出さない取り組み。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 古紙リサイクル | アート・コート紙用 | 41,620 kg | 54,070 kg（86.4%） | リサイクル合計 59,559 kg（95.2%） |
| | 段ボール古紙用 | 10,180 kg | | |
| | 雑誌古紙用 | 1,570 kg | | |
| | 新聞古紙用 | 400 kg | | |
| | 上質古紙用 | 300 kg | | |
| その他リサイクル | 使用済みプレート（アルミニウム） | 4,950 kg | 5,489 kg（8.8%） | |
| | 使用済みインキ缶など（スチール缶） | 539 kg | | |
| 焼　却 | 使用済みインキ缶（プラスチック容器） | 110 kg | 3,015 kg（4.8 %） | |
| | インキ残肉 | 413 kg | | |
| | 廃液（印刷機） | | | |
| | ＣＴＰ：8月に無処理版に変更 | 1,950 kg | | |
| | 燃やすごみ（特殊紙：オーパー等） | 258 kg | | |
| | 燃やすごみ（汚れた紙やタック他） | 190 kg | | |
| | 燃やすごみ（汚れたプラスチック類） | 94 kg | | |

2018 年度　リサイクル品目内訳（本社工場）




2018 年度リサイクル率（本社工場）

プラスチックごみによる海洋汚染問題の勉強会を従業員有志で開催

工場内に設置された資源回収 BOX

資源回収の現場を知るため、従業員有志で
横浜市戸塚資源選別センター様を見学

資源ごみの回収と計量風景

# 第三者コメント

## IIHOE（アイアイエイチオーイー）　人と組織と地球のための国際研究所　代表 川北秀人 様

当意見は、本報告書および同社のウェブサイトの記載内容に基づいて執筆しています。
同社の CSR への取り組みは、ISO26000 に準拠しつつ、SDGs を経営計画に織り込み、環境負荷の削減や地域社会貢献活動を中心に意欲的に進められており、他社のモデルとなる水準にあると言えます。

**高く評価すべき点**

・ゼロカーボンプリント、FSC® 森林認証紙の使用推進、ノンVOC インキ使用をはじめとする主な環境側面（P4-5、P10）について、業界に先駆けて取り組むとともに、取引先への働きかけも明記されていること。今後は、SDGs の期限である 2030 年までの長期目標や取り組みの試案の明示にも期待します。

・従業員が SDGs を理解し、その達成に自社の事業や活動を通じて貢献するための主体的な取り組み (P3) について、経営計画プロジェクトチームとして活動していること。今後は、調達先や納品先など、取引先に対しても働きかけていただけることを期待します。

・地域イベントへの協力や大学生インターンシップの受け入れをはじめとする地域社会貢献活動（P8-9）について、経営者自らが率先して社内外でイニシアティブを発揮し、「おくすり手帳普及プロジェクト」をはじめとする多様な実践とともに、他社の模範となる水準にあること。また、その取り組みの発信・共有にも熱心に取り組んでいること。今後も、従業員の方々によるボトムアップ型の取り組みも含め、単に紹介するだけでなく、相手先の人材育成にも寄与されることを期待します。

**改善努力を求めたい点**

・重要なステークホルダーである従業員の働き続けやすさについて、安全衛生や労働時間管理、育児・介護への短時間勤務などの支援制度をはじめとする取り組みについても、施策・実績がデータとともに開示されることに期待します。

・CSR への取り組みに関する情報開示について、ISO26000 に準拠した「基本的な考え方」を示し、個々の取り組みを詳しく紹介していることを評価しつつ、自ら掲げた「迅速かつ適切な情報開示」という観点からは、より早期に発行されることを強く期待します。

ＩＩＨＯＥ：「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に 1994 年に設立された NPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業の CSR 支援も多く手がける。http://blog.canpan.info/iihoe/（日本語のみ）

川北秀人氏：1964 年大阪生まれ。94 年に IIHOE 設立。NPO や社会責任志向の企業のマネジメント、市民・事業者・行政などが総力を挙げて地域を守り抜く協働・総働の基盤づくり、企業のみならず、NPO や自治体における社会責任（CSR・NSR・LGSR）への取り組み推進を支援している。

# 第三者コメントをうけて

## 株式会社 大川印刷　代表取締役社長　大川哲郎

2018 年度は第 2 回ジャパン SDGs アワード「SDGs パートナーシップ賞（特別賞）」を受賞したことで後半、お問い合わせや見学が増えるなど、変化が起きました。

2017 年度にスタートした従業員さんのボトムアップ型で作成、運用していく「SDGs 経営計画」は二年目となり、その取り組みの成果も出てきつつあります。

そのような弊社の取り組みに関して今回一定の評価を頂きました一方で、複数の改善点をご指摘いただきました。特に重要なステークホルダーである従業員さんの働きがいや働きやすさ等について、アンケートの実施と公開はできていても、具体的な安全衛生及び労働時間管理、育児・介護への短時間勤務などの支援制度をはじめとした取り組みについてはまだまだ道半ばであり、今後施策の立案と実施、評価、公開を進めて行くようにします。

そしてご指摘いただいた SDGs の期限である 2030 年までの長期目標や取り組みについては、「世界一の環境印刷会社になる」を始めとした 2030 年までの中期目標を立ててはいるものの、その外部への発信が十分とは言えない状況のため、こちらも具体化させ進めていくこととします。また、今後は自社の SDGs の取り組みだけではなく、調達先や納品先など、取引先に対しても働きかけていくことに挑戦します。

更に加えて、様々なステークホルダーとの連携事業の実施や、その取り組み紹介で満足するのではなく、連携先の成長や人財育成につながるような取り組み方を模索していきます。発行時期に関しても度々ご指摘頂いております。適切な時期に発行できるよう、年間スケジュールを全社的に把握しながら進行するよう改めます。

グリーン購入ネットワーク「オフセット印刷サービス発注ガイドライン」に基づき作成しています。

印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

リサイクルを阻害しない資材だけを使っています。

MUD
P10396

見やすさに配慮した、ユニバーサルデザイン書体を使用し、年齢の差、障がいの有無にかかわらず、誰にとっても使いやすく見やすい、メディア・印刷物である MUD 認定を取得しています。

有害な VOC（揮発性有機化合物）を発生させるもととなる石油系溶剤が0%のインキを使用しています。

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C009309

違法伐採がされていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを活用して製造された、FSC® 森林認証紙を使用しています。

全日本印刷工業組合連合会が認定する全印工連 CSR 認定において、最上位認定スリースターを取得しています。
P-00027

ZERO® $CO_2$ PRINT

このCSRレポート2019を作成するにあたり、電力使用量は79.6kwh、$CO_2$ 排出量は38.1kgとなります。2016年4月より行っている、印刷事業において発生する$CO_2$全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。

「横浜地域貢献企業」の【最上位認定】を受けています。

facebook　YouTube　大川印刷 twitter @OhkawaPrinting　社長 twitter @tetsuo_ohkawa　大川印刷 Instagram @ohkawaprinting　社長 Instagram @tetsuo_ohkawa　社長ブログ


大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

本社・工場：〒 245-0053　横浜市戸塚区上矢部町 2053 番地
TEL：045-812-1131（代）FAX：045-812-1135

横浜営業所：〒 220-0011　横浜市西区高島 2-14-12 ヨコハマジャスト 2 号館 3F
TEL：045-441-2011（代）FAX：045-441-2014